

平成30年度
入学試験問題

国 語

2月1日
特待生

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) おじいさんは昔のことをカイソウして言った。
- (2) かさを持って出たら、ヒニクにも晴れてきた。
- (3) 大きな船が港からシュッコウしていった。
- (4) 京都までのオウフク乗車券を買った。
- (5) 無理をショウチでお願いをする。
- (6) 広場にグンシュウがひしめいた。
- (7) 農家では夏の水不足はシンコクな問題だ。
- (8) 案内のプリントをスる。
- (9) 昔から日本人はご飯が元気のミナモトだった。
- (10) お皿に料理をモる。

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

*字数制限のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

民主主義というものは、多数決と完全に同じではありません。みんなに同じ重みの権利があつて、いちばん多い支持を集める考え方がもっとも尊重される、^①というのはたしかに民主主義の約束ことのひとつではあります。しかしそれだけで民主主義が成り立つわけではないのです。

5

民主主義では、多数決以上に大切なことがあります。それは十分に話し合うことです。国会なら国や世界全体をできるだけよいものにするために。県や市などの議会ならその地域をできるだけよいものにするために。クラスで何かを決めるなら、その学校やクラスをできるだけよいものにするために。そういう大きな目的をふまえたうえで、そのために僕はこう考える、いや私はこう思うと、誠実に意見を出し合い、話し合うのです。

10

a そのなかで、必要な

ら質問も出てくるでしょう。自分の出した意見に質問を出されたら、なんでそんなことを聞くんた、などと怒ってはいけません。自分の意見への賛成者を増やすためにも、きちんと答えるべきです。そして

15

見や提案というものは、自然と消滅していくはずで
部の人たちの権利を不当に迫害するような法案などです。

b 一

十分に話し合うことと並んでもうひとつ大切なことは、少数意見といえどもできるだけ尊重することです。たくさん人間がいれば、いろいろな意見が出てくるというのは自然なことです。いろいろな意見があるからこそ、その社会は活性化し、発展していくともいえます。いくらその意見が多数のものではないからといって、最初から完全に無視したり抑えこんだりする、^②というのでは民主主義になりません。

25

例をあげましょう。あるクラスの遠足です。神奈川県かながわの鎌倉かまくらに行くことというのは決まっていますが、そのコースのなかに正味二時間の空き時間があります。それを利用して鎌倉大仏を見に行くか由比ガ浜ゆいがはまという場所で海を見るかの決定が、生徒たちに任せられたとしましょう。

30

鎌倉大仏も由比ガ浜も、どちらも江ノ電えのでんの長谷はせという駅から歩いて十分くらいです。海水浴ができる季節ではないので、由比ガ浜に行っても

35

c 波打ち際なみぎわで遊ぶくらいですが、それもまた楽し

そうです。一方、鎌倉大仏に行く途中には名物の大きなおせん

べいが売られています。許されたお小遣いのなかで十分に買える値段なので、どうせなら大仏様を見ながらそれを食べたい、という人も多いのです。なお、引率する先生の数がかぎられているので、二つのコースに分けて好きなほうに行く、というわけにはいきません。このとき、クラス四十人のうち、それぞれの希望が次のようになっているとしましょう。

鎌倉大仏…二十二
由比ガ浜…十八人

これで単純に多数決をとると大仏様に決まり、二十二人の人はうれいのですが、十八人にとっては残念な結果になってしまいます。しかし鎌倉の地理に詳しい生徒がいて、それぞれの滞在時間を三十分ずつにすれば、子どもの集団行動とはいえ、十分に両方を訪れることができる、発言しました。こうなると大仏様も由比ガ浜もかなりあわただしくはなるのですが、少なくとも（ A ）
、という人はいなくなるのです。

であれば、数が多いのをいいことに、なにがなんでも大仏様に二時間居続ける、とするよりは、由比ガ浜の十八人の意見も尊重する形で両方を訪れるようにする、というのはひじょうに民主的な決定

55

といえます。もちろん予算などの関係で先生の許可が得られれば、ですが。あとは細かい条件として、もしスケジュールが遅れて長谷駅付近での行動時間が正味一時間半を切っていたら、そのときは由比ガ浜のほうはあきらめてもらう、などの取り決めがあると、当日にもめることはさらになくなるかもしれません。

60

少数意見の尊重ということであれば、話し合いの過程での修正案というものも、ひじょうに意味を持ってきます。②ある取り決めに賛成する人が半数より少し多いが、それを少し修正（手直し）することで賛成にまわる人がかなり増え、一方でその修正ゆえに反対という人がほとんどいなくなる。そんな状況では、もともとの案をそのまま多数決で通すよりは、修正して賛成者を増やして通したほうがよい、ということ。これも例をあげましょう。

65

あるクラスでは、学校の規則というわけではなく、生徒たちの自主的な決定により、学校にマンガ本を持ってくることをいっさい禁止していました。前はそんな取り決めはなかったのですが、せっかくの昼休みにもマンガを読む人が続出してしまい、友だち同士で遊ぶ機会がほとんどなくなってしまったからです。これは学校の規則ではないので、クラスの生徒の決定により、その取り決めにくつがえすことができます。

75

ある日のクラス会議で、そんな取り決めはもう廃止しよう、という提案が出されました。友だち同士で遊ぶ機会を増やすのはたしかにいいことだけど、たとえば休みの日にクラスメートから借りたマンガを返すために持ってくることで禁止されるのでは、不便すぎる、というのがその理由です。いわばマンガ持参解禁法案が出されたわけです。

マンガ持参解禁法案に賛成の人、つまり返すためなら持ってきてもいいじゃないか、という人は、クラス四十人のなかで二十二人、一方で反対の人は十八人だとします。つまりそのまま多数決にかければ、マンガを持ってくることはOKとなります。

しかしそこで、マンガ持参解禁法案を少し手直しすればいいじゃないか、という意見が出されました。マンガを持ってこないという取り決めの理由は、友だち同士で遊ぶ機会を守るためです。一方、解禁に賛成の理由は、返すのに不便だから、ということですから。ならば持つてくることは許しても、朝の最初の授業やホームルームの始まりから、最後の授業やホームルームの終わりまではけっしてカバンやランドセルから出してはいけないことにし、受け渡しはその前後にパツとやればいいではないか。それを破った人はそれから二か月、これまでどおりマンガをいっさい持つてきてはいけないことにしよう、という修正案です。

③ そういった修正まで含めれば、それまでの反対者十八人のうち、

③ 十五人までが賛成にまわるといのです。一方、それまでの賛成者二十二人のうち、そんな修正は絶対にイヤだ、という人は四人だけでした。二十二人のうち残り十八人は、二か月だなんだと多少面倒だとしてもいい、という感じでした。ひよっとすると修正がイヤだと言った四人は、解禁されるのをよいことに、昼休みにもそつと読んじゃおう、という気持ちだったのかもしれないね。二十二人からその四人を除いた十八人と、あらたに賛成にまわった十五人、つまり三十三人が手直しされた案には賛成なのです。であれば、十二人が賛成している最初の案を押し通すよりは、少し修正して十三人が賛成という形で通すのが、民主的なやり方です。ある案を、通すか通さないかだけでバツサリ決めるのではなく、少し変えることでずつと多くの賛成が得られるようにする。これが修正案のよいところですよ。

このように、よく話し合い、少数意見も尊重し、必要なら修正案による手直しもする。それでもなお、意見が一致しない場合も当然あります。十分にそういった手続きをふんだうえで、最後に数の多い意見を尊重しよう、というのが本来の多数決です。そしてそういっ

④ 本来の多数決で決まったことは、クラスならクラス全員で尊重す

る必要があります。それが明らかに法律に違反しているとか、誰かの当然の権利を侵害している、といった場合はまた別ですが。

さて、多数決で決まったことでも、それがじつはあまりよい案ではなく、結果としてある害をおよぼしてしまう場合があります。そのときに、こんなことを言う人がよくいます。

「僕は採決のときに反対したんだから知らないよ。賛成した人たちだけでなんとかしてよ」

そう言いたくなる気持ちはわかります。しかし、先ほど述べたような民主的な手続き、つまりよく話し合い、少数意見も尊重し、必要なら修正案による手直しもする、といった手続きのあとに多数決で決まったことに対して、それは通用しません。反対の理由をしっかりと述べてほかの人にも納得させることができなかったその人にも責任があるからです。ですから採決のときに賛成したか反対したかに関係なく、発生した害にはみんなに対処しなければなりません。逆にいえば、あとになってそういう知らん顔をする人を出さないためにも、たんに数が多ければなんでも押し通すというのではなく、十分な話し合いと少数意見の尊重が必要となるわけです。

何年かに一度、国会での強行採決というのが話題になります。これはある法案に賛成する人が多いとわかっているときに、話し合いの手続きを強引に打ち切って、すぐに多数決で決めてしまおう、と

135

いうことです。それに反対している少数派がいちばん反発するやり方であるのは当然でしょう。しばしば「数の横暴」、あるいは「数の暴力」などという言葉が使われます。

ただし逆に国会では、少数意見の側が、そういった民主的な手続きの必要性を口実に、不必要なまでに決定を先に延ばすという作戦をとる場合も見受けられます。どちらも困ったものです。国会議員たちが「すばらしいねえ、君たち」と感心するくらい、^⑤民主的で意味のある話し合いや決定を、クラスのなかでせひやってくください。

（加藤良平 『多数決とジャンケン』

ものごとはどうやって決まっていくなのか』講談社）

140

問一 —— 線①とありますが、筆者は民主主義が成り立つためにはどのようなことが必要だと述べていますか。本文中から二つぬき出しなさい。一つめは十字以内、二つめは二十字以内とします。

問二 にあてはまる語を次からそれぞれ選び、

記号で答えなさい。

ア、たとえば イ、つまり ウ、もちろん
エ、せいぜい オ、もはや カ、すでに

問三 (A) にあてはまる内容を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、自分の選んだ場所にしか行きたくない
イ、行きたくない場所に行かねばならない
ウ、どちらの場所ものんびり楽しめない
エ、行きたい場所にまったく行けない

問四 —— 線②とありますが、「ある取り決め」とは、たとえば

どのようなものことですか。本文のこれより後の例から答えなさい。

問五 —— 線③とありますが、十五人が賛成にまわった理由を次のようにまとめました。、 にあてはまる内容を答えなさい。

1 なので最初は反対していたが、修正案を聞いて
 2 と考えたから。

問六 —— 線④とありますが、最後まで反対していた人も多数決で決まったことを「尊重」しなくてはならないのはなぜですか。その理由を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、クラス全員で話し合っても、あまりよい案ができ上がらず、結果として害のあるものになってしまうことはあるから。
イ、たとえその意見に反対だったとしても、その理由を述べてクラスを納得させられなかった自分にも責任があるから。
ウ、数が多いからといって多数決で押し通すような「数の横暴」を避けるためにも、しっかり話し合いをすべきであるから。
エ、結局多数決は一番多い支持を集めた考え方が絶対正しいと考えることが、民主主義の最も大切な約束ことであるから。

問七

——線⑤とありますが、たとえばあなたがクラス会議の議長をする場合、「民主的で意味のある話し合いや決定」をしやすくするために、具体的にどのような工夫くふうをするとよいと考えますか。問一の内容をふまえて、あなたの考えを書きなさい。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

「太二、おせえよ」

みんなより頭ひとつ背の高い武藤に呼ばれて、道具小屋へとダッシュしながら、ぼくはグーをだそうか、パーをだそうか悩んでいた。きのう、おとといとグーで助かっていたから、みんなそろそろパーをだそうと考えているかもしれない。いや、そうはいつでも、やっぱりグーがつづく気がする。

朝練で荒れたコートを、昼休み中にブラシでならすのは一年生の役目だ。ただし、二十四人全員でする必要はないので、グーパーじゃんけんでの一発勝負で人数の少ないがわになった者たちが四面あるコートの整備に当たる。同数の場合は、前日に負けた手をだしたがわが負けになる。

「一中の男子テニス部に代々うけつがれてきた伝統だからな。誰かがひとりでやることになったとしても、手伝ったりするなよ」

四月半ばに二年生の中田さんから言われたときに、グーパーじゃんけんだと結果がかたよって不公平になるのではと、ぼくは心配になった。

「まあ、やってみな。おもしろいもんで、あんがい公平にいくから。

いろんなメンバーでコート整備をするようになって、自然にチームワークもよくなるしな。毎日自分がやるものだとおもって、助かったらラッキーくらいに考えておくのが無難だけど、本気で読みを入れて勝負するのもおもしろいぜ。ただし、かげで相談をして、誰かひとりをハメるのは絶対になしだぞ。わかったな」

いまはキャプテンになっている中田さんは、いかつい顔に似合わず気がきくひとらしく、こちらの懸念をあらかじめうち消してくれたのはありがたかった。さらに、いくら伝統だといっても、じゃんけんのせいで人間関係が悪くなっては意味がない。そのときは当番制に切りかえてやるから、遠慮なく言いにくいところまでしてくれたが、ぼくは翌日から昼休みのじゃんけんが気になってしかたがなかった。

もともと、中田さんが言ったとおり、たいていは十四人对十人くらいの結果におちついて、自分が少ないほうにはいったときでも余裕をもってコート整備をすることができた。一度だけ、グーが二人になったことがあり、ぼくもそのうちのひとりだった。勝負の結果を嘆いているひまなどなく、二人ともが左右の手に一本ずつブラシを持ち、無言でコートを掃いてまわった。どうにかやりおえたときに昼休みの終了を告げるチャイムが鳴りだして、大急ぎでブラシ

をかたづけ、教室にかけこんだあとはしばらく汗がひかなかった。

ひとりになったら、絶対に時間内にはおわらない。そのときそうおもったが、さいわい十月半ばの今日まで、二十二人対二人というのが最大のかたよりだった。でも、そろそろ、グーかパーがひとりだけということになるかもしれない。

「おい、末永。早く来いよ」

ぼくがみんなの輪にはいりかけたときに武藤がどなって、ふりかえると末永が昇降口から出てきたところだった。長髪を、トレードマークのヘアバンドでまとめた末永が、長い手足をふって一気に迫ってくる。

「太二、パーな」

武藤は小声で言うと、そっぽをむいた。いままで一度もなかったことだが、^①みんながなにをしようとしているのかはわかった。やめたほうがいいよ、ということばが口から出かかったときに末永が到着した。

「悪い悪い。給食のあと、腹が痛くなってさ」とおくれた言いわけをする末永を尻目に、「グーパー、じゃん」とみんなが声をだした。

「あっ」

自分だけがグーだとわかり、末永がしゃがみこんだ。うなだれた顔にかかった髪かみのすきまから、とがらせた口が見えた。

55

「すげえ偶然くうぜんだな。おい、末永。手伝ってやりたいのは山々だけど、よけいなことをしたら先輩せんぱいたちに怒られるからよ」

武藤は早口で言うと、さあ行こうぜというように右腕みぎうでをふった。ぼくは残って末永と一緒にブラシをかけようかとおもったが、久保に肩かたをたたかれて、みんなにまざって小走りで校舎にもどった。

たまたま末永がおくれたのかこつけて、武藤がワナをしかけたのだ。もしも末永と同時に到着していたら、ぼくもグーをだしていたかもしれない。ギリギリセーフと安堵あんぶすると同時に、末永がキャプテンの中田さんか顧問の浅井先生にこのことを訴うったえたいへんだと不安がよぎった。

中田さんはふだんはおだやかだが、一度怒ると簡単には相手を許さなかった。夏休みの練習で、数人の二年生が日かげでサボっていたときには、自分も一緒にやるからと二年生全員で二百回素振りすぶりをした。あらかじめ注意されていたのに、末永ひとりをハメたことがばれたら、どんな罰ばつを与あたえられるかわからない。

こんなことなら武藤の言いなりになるんじゃないかと、ぼくは後悔こうかいしていた。でも、聞こえなかったふりをしてグーをだしていたとしても、自分だけいい子になりやがってと、みんなの反感を買っていただろう。

久保が武藤についたのも、ぼくにはショックだった。久保は小学

75

一年生からの友だちで、超ちやうがつくほどまじめなやつだ。そのぶんかけひきがへたで、肝心かんしんなところで相手に裏をつかれる。グーパーじゃんけんでもよく負けて、三回に二回はコート整備をしていた。だから、というわけでもないが、ぼくは久保ならこういうときは絶対にとめるだろうとおもっていた。

武藤と末永はプレースタイルがよく似ていた。二人とも百七十五センチをこえる長身で、威力いりよくのあるサーブ&ボレーを武器にしている。ツポにはまると手がつけられないが、ベースラインでの打ちあいをやや苦手にして、自分のイージーミスから崩れるくずれことが多いところまでそっくりだった。

ただし、武藤が練習熱心なのに対して、末永はすぐに手をぬこうとする。筋トレのときに、末永がまじめにやらなかったせいで、スクワットや腕立て伏せふせの回数を増やされたことも一度や二度ではなかった。だから、武藤が中心になってハメたのはたしかに行きすぎだが、末永にまったく非がないわけではなかった。

そうはいつても、ひとりですべてのコートにブラシをかけるのはたいていへんだ。末永の性格からすると、途中とちゆうで投げださないとまかぎらない。それをきっかけに末永が退部したら、後味の悪いことになってしまう。

昼休みのおわり近くに、四階の教室の窓からグラウンドに目をや

95

ると、末永はまだブラシをかけていた。かなりがんばったようで、残りは半面だったが、そこで昼休みの終了を知らせるチャイムが鳴りだした。両手にブラシを持った末永は前かがみになって最後の力をふりしぼり、コートの端はしにたどり着くなり地面にひざをついた。末永は放課後の練習にいつもどおり参加したので、ぼくは胸をなでおろした。今回は大ごとにならずにすんだが、昼休みのグーパーじゃんけんがあるかぎり、③こうした問題はくりかえされるのだとおもうと気が重かった。なにより、武藤の言いなりになってしまった自分が情けなかった。練習にも集中できず、ぼくはどうすればいいのかを考えながら家までの帰り道を歩いた。

〈中略〉

やはりキャプテンの中田さんに助けてもらおうしかない。そうおもったが、それをおもいとどまったのは、きのうから今日にかけて、一番きついおもいをしているのは末永だと気づいたからだ。末永以外の一年生部員二十三人は、自分が加担した悪だくみの A として不安におちいつているにすぎない。それに対して末永は、今日もまたハメられるかもしれないという恐れおそをかかえながら朝練に出てきたのだ。最終的に中田さんに頼たのむとしても、まずはみんなが末

115

110

105

100

永にあやまり、そのうえで相談するのが筋だろう。

そう結論したのは、三時間目のおわりぎわだった。おかげで授業はまるで頭にはいっていなかったが、ぼくはようやく自分のするべきことがわかった気がした。そこでチャイムが鳴り、トイレに行くとうと廊下ろうかに出ると、武藤が頭をうつむかせてこっちに歩いてくる。

「よお」

「おっ、おお」

武藤はおどろき、気弱えがわげな笑顔をうかべた。そんな姿は見たことがなかったので、もしかすると自分から顧問の浅井先生かキャプテンの中田さんにうちあげたのではないかと、ぼくはおもった。

それなら、昼休みには浅井先生か中田さんがテニスコートに来るはずだ。たっぷり怒られるだろうが、それで **B** がつくならかまわなかった。

給食の時間がおわり、ぼくはテニスコートにむかった。しかし集まったのは一年生だけだった。ぼくは落胆らくたんすると同時に自分の甘あまさに腹が立った。

いつものように二十四人で輪をつくったが、誰の顔も緊張きんちやうで青ざめている。末永にいたっては、歯をくいしばりすぎて、こめかみとあごがびくびく動いていた。いまさらながら、ぼくは末永に悪いことをしたと反省した。

135

130

125

120

しかしこんな状況じやうきやうで、きのうはハメて悪かったと末永にあやまったら、どんな展開になるかわからない。武藤をはじめとするみんなからは、よけいなことを言いやがってとうらまれて、末永だって怒いかりのやり場にこまるだろう。

だから、一番いいのは、このままふつうにグーパーじゃんけんをすることだった。うまく分かれてくれればいいが、偶然、グーかパーがひとりになる可能性だってある。ハメるつもりがないのに、末永がまたひとりになってしまったら、事態はこじれて收拾しゅうじゅうがつかなくなる。

みんなは青ざめた顔のまま、じゃんけんをしようとしていた。どうか、グーとパーが均等に分かれてほしい。

こぶしを顔の横に持ってきたとき、ぼくの頭に父の姿がうかんだ。一緒にテニススクールに通っていたころ、父は試合で会心のショットを決めると、応援おうえんしているぼくたちにおかってポーズをとった。ぼくや母も、同じポーズで父にこたえた。

「グーパー、じゃん」

かけ声にあわせて手をふりおろしたぼくは **I** をだしていた。本当はVサインのつもりだったが、この状況ではどうしたって **I** にしか見えない。ぼく以外はパーが十五人でグーが八人。末永はパーで、武藤と久保はグーをだしていた。

155

150

145

140

ぼくが顔をあげると、むかいにいた久保と目があった。

「太二、わかったよ。おれも [I] にするわ」

久保はそう言ってグーから [I] にかえると、とがらせた口から息を吐いた。

「なあ、武藤。グーパーはもうやめよう」

久保に言われて、武藤はくちびるを隠すように口をむすび、すばやくうなずいた。そして、武藤は握にぎっていたこぶしから人差し指と中指を伸ばすと、ぼくにむかってその手を突きだした。

武藤からのVサインをうけて、ぼくは末永にVサインを送った。

末永は自分の手のひらを見つめながらパーを [I] にかえて、輪のなかにさしだした。

「明日からのコート整備をどうするかは、放課後の練習のあとで決めよう。時間もないし、今日は [I] がブラシをかけるよ」

そう言って、ぼくが道具小屋にはいると、何人かの足音がつづいた。ふりかえると、久保と武藤と末永のあとにも四人がついてきて、ぼくは八本あるブラシを一本ずつ手わたした。

コート整備をするあいだ、誰も口をきかなかった。ぼくの横には久保がいて、ブラシとブラシが離はなれないように歩幅ははをあわせて歩いていると、きのうからのわだかまりが消えていく気がした。

となりのコートでは武藤と末永が並び、長身の二人は大股おわたでブラ

175

170

165

160

シを引いていく。コートの端までくると、内側の武藤が歩幅せまを狭くしてきれいな弧こを描えがき、直線にもどれば二人ともがまた大股おわたになってブラシを引いていく。

⑦ ぼくたちはこれまでよりも強くなるだろう。チーム全体としても、もっともつと強くなれるはずだ。

(佐川光晴『大きくなる日』より「四本のラケット」集英社)

180

問一 —— 線①とありますが、「ぼく」にはなにがわかったとい

うのですか。() に入る言葉を十字以内で補い、

答えを完成させなさい。

みんなが() ようとしていること。

問二 —— 線「買って」と同じ使い方をしているものを次から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア、若い時の苦勞は買ってでもせよ。

イ、不要なものまで買ってしまった。

ウ、彼女の才能を高く買っている。

エ、国民の怒りを買ってしまふ発言。

問三 —— 線②とありますが、なぜ「後味の悪いことになってし

まう」のですか。次の文章の(1)～(3)に入る言葉

を本文中からそれぞれ一語でぬき出して、説明を完成させな

さい。

練習態度にふまじめなところがある末永にも(1)が

ないわけではないが、それでも武藤を中心に彼をハメたのは

(2) だという思いがあり、自分も武藤の言いなりになっ

てしまったことを(3) しているから。

問四 ——— 線③とありますが、「ぼく」はどのようなことが起こ

りうると思っっていますか。次からふさわしくないものをつ

選び、記号で答えなさい。

ア、じゃんけんの結果に注意がいき、肝心の練習に集中できな

くなり、試合に勝てなくなること。

イ、末永がまたひとりでコート整備をやらされることになり、

それをきっかけに退部してしまうこと。

ウ、部員のひとりをハメることがくり返されるようになり、部

員同士が信じあえなくなるということ。

エ、末永が、ハメられたことへの仕返しとしてワナをしかけ、

だれかひとりにコート整備をさせようとする事。

問五 A、 B に入る言葉として適当なものを次から

それぞれ選びなさい。

ケチ ケリ グル ツケ ミス

問六 ——— 線④とありますが、「自分のすべきこと」は何だと「ぼ

く」は思ったのですか。三十字以内で答えなさい。

問七 ——— 線⑤とありますが、「自分の甘さ」とは「ぼく」のど

のようなどころを指していますか。「くところ。」に続くよう
に三十字以内で答えなさい。

() () ところ。

問八 I に共通して入る言葉を考えて一語で答えなさい。

問九 ——— 線⑥とありますが、この時の「武藤」の心情を説明し

たものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、自分が末永をハメたことをチームメイトに責められ、コート整備の当番をグーパーで決めるのはもうやめた方が良く考えている。

イ、いつの間にかみんなが末永の味方になっていることを知り、自分が孤立こりつしないためにも、今は久保の提案に従うしかないと考えている。

ウ、末永への敵対心からみんなを巻き込み、彼を追いつめたことを後悔しており、仲直りをして一緒にコート整備をしたかと思っっている。

エ、自分のせいでチームを気まずい雰囲気ぶんいきにしてしまったことを申し訳なく思い、末永をハメたのは行き過ぎだったかと思っっている。

問十 ——— 線⑦とありますが、「ぼく」がそのように思ったのは

なぜだと考えられますか。五十文字以内で説明しなさい。